

第3章 出火原因別火災状況

1 放 火

- 令和5年は出火原因の第2位でしたが、令和6年は出火原因の第1位。
- 夜間（18時から翌5時）は全火災件数に占める放火火災の割合が高い。

抽出条件：経過分類コード「911 放火」、「912 無意識放火*」、「921 放火の疑い*」

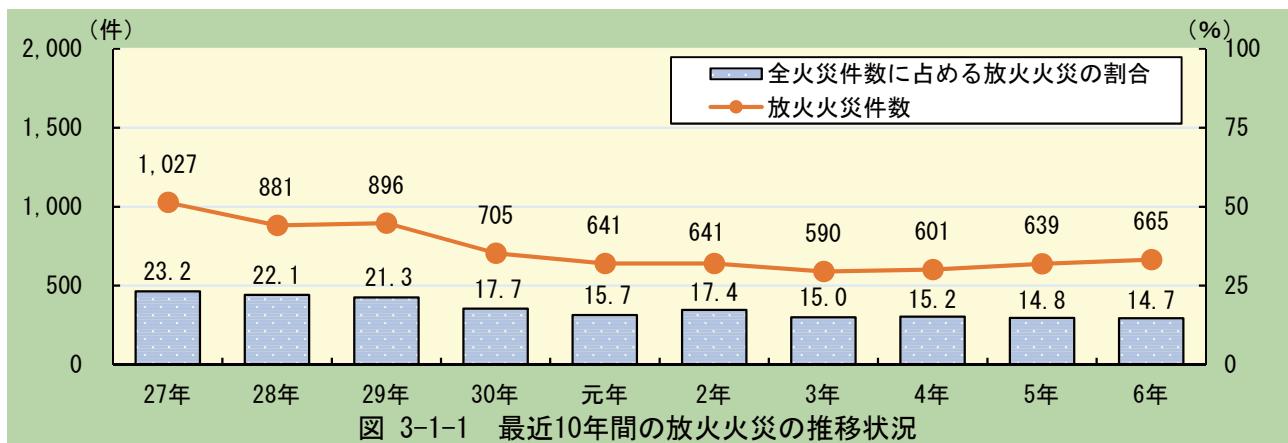
(1) 火災状況

ここでとりあげる「放火」とは、放火の疑い及び無意識放火を含んだ火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-1-1、最近10年間の火災の推移状況をみたものが図3-1-1です。

表3-1-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	火災種別							損害状況							
	合計	建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 ^(m²)	焼損表面積 ^(m²)	損害額（千円）	死者	負傷者
		小計	焼	全焼	半焼	部分焼									
27年	1,027	382	8	8	58	308	1	54	-	590	2,036	1,388	556,067	18	60
28年	881	384	14	14	47	309	-	39	2	456	3,501	732	328,668	24	73
29年	896	351	7	7	49	288	3	31	-	511	1,608	1,003	275,259	14	57
30年	705	276	7	3	46	220	-	17	-	412	1,178	755	171,864	14	60
元年	641	255	14	6	39	196	1	12	-	373	1,937	532	525,967	26	67
2年	641	270	6	8	38	218	-	21	-	350	995	607	380,516	19	58
3年	590	213	6	2	33	172	1	12	-	364	1,290	270	260,091	17	27
4年	601	207	8	8	37	154	2	11	-	381	1,141	570	220,907	24	55
5年	639	195	11	11	32	141	2	12	-	430	1,775	593	333,537	22	33
6年	665	218	6	4	45	163	1	10	-	436	1,177	357	267,524	9	44



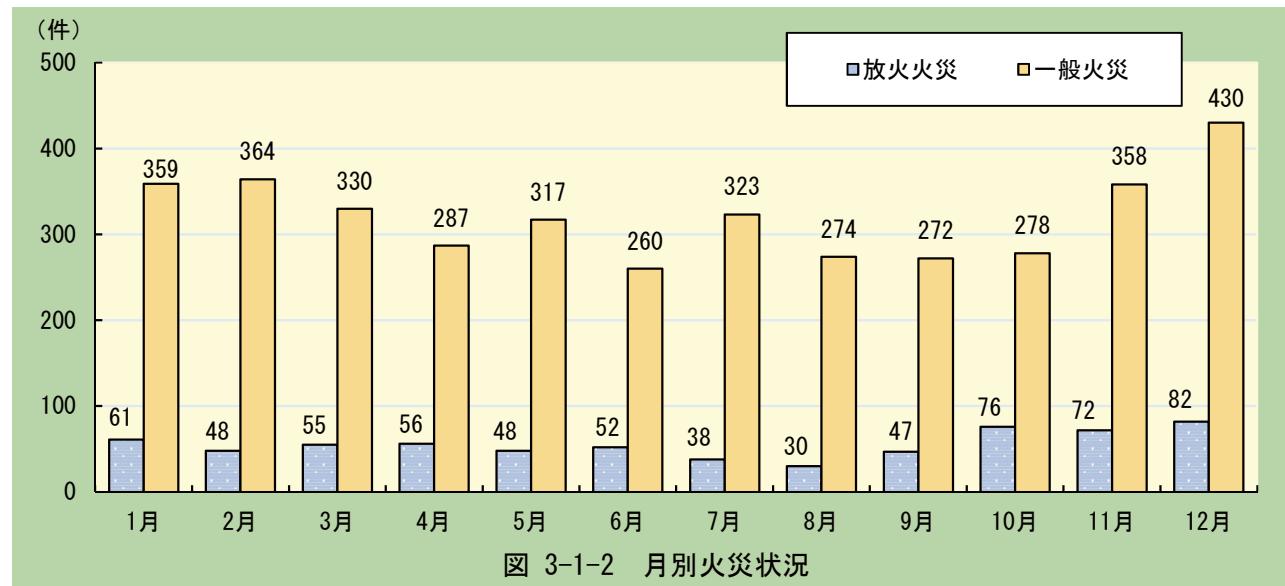
注 全火災件数は治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。以下同じ。

(2) 放火火災の傾向

ア 月別と時間別の発生状況

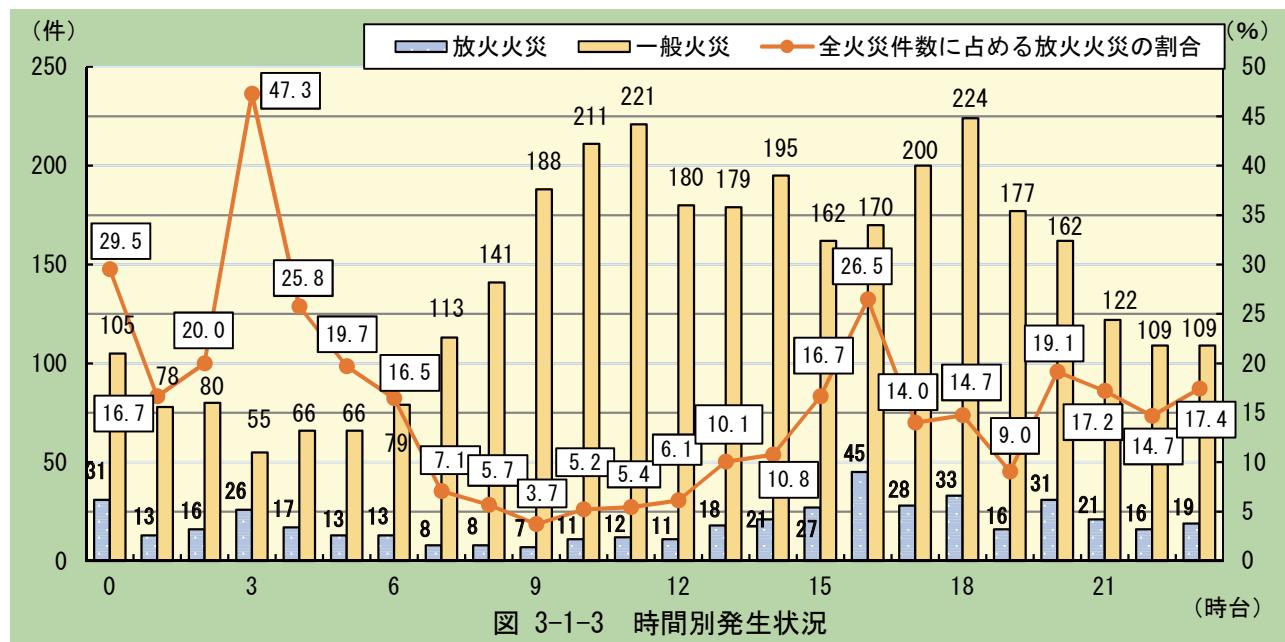
(ア) 月別発生状況（令和6年中）

放火と放火以外の火災（以下「一般火災」という。）の月別発生状況をみたものが図3-1-2です。



(イ) 時間別発生状況（令和6年中）

全火災件数のうち出火時間が不明の664件を除いた3,853件の火災について、放火火災と一般火災の時間別発生状況をみたものが図3-1-3です。



- 放火火災を月別でみると、12月に82件発生し最多。
- 一般火災は日中に多く発生しているが、放火火災は全火災件数に占める放火火災の割合が日中に比べて夜間（18時から翌5時）の方が高い。

イ 放火場所（出火箇所）と着火物

放火された場所（出火箇所）を建物関係（主として建物の箇所）、建物関係以外（主として建物以外の箇所）に分けてその着火物をみたものが表3-1-2です。

表3-1-2 着火物別放火場所（出火箇所）

放 出 火 火 箇 所 所	合 計	ご み く ず	枯 草 ・ 落 葉 ・ 立 木 ・ 芝 草	紙 ・ 紙 製 品	合 成 樹 脂 ・ 合 成 樹 脂 製 品	織 維	く ず	木 質	床 材	家 具	引 火 物	車 両	そ の 他	不 明	
合	計	665	185	116	105	78	61	58	13	12	5	4	4	9	15
建物関係（主として建物の箇所）	小計	207	27	-	65	35	43	10	5	-	3	-	-	6	13
	共用部分	84	14	-	40	16	7	4	1	-	-	-	-	1	1
	居住関係	56	3	-	13	4	24	2	-	-	2	-	-	2	6
	倉庫・物置	13	3	-	2	2	2	2	-	-	-	-	-	-	2
	車庫・駐車場	11	2	-	2	2	3	1	1	-	-	-	-	-	-
	ベランダ・屋上等	10	1	-	2	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	建物の外周部	9	-	-	2	2	1	-	1	-	-	-	-	2	1
	店舗・客室関係	6	-	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	1	1
	作業関係	4	1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	事務室等	4	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	施設管理・休憩室等	4	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
建物関係以外（主として建物以外の箇所）	空家・工事中建物	3	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
	上記以外	3	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
建物関係以外（主として建物以外の箇所）	小計	458	158	116	40	43	18	48	8	12	2	4	4	3	2
	車両	7	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	4	-	-
	その他	158	48	58	13	7	3	16	5	5	1	-	-	1	1
	公園	140	47	23	11	25	6	24	-	1	1	1	-	1	-
	敷地内	37	9	8	5	4	3	1	1	-	3	-	-	-	-
	道路・高速道路	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	河川敷	31	9	13	-	-	1	4	2	1	-	-	-	-	1
	空地・墓地・田畠	12	-	8	1	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-
	ごみ捨場	14	9	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	屋外駐車場	13	7	3	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-
	工作物等	5	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	森林	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	屋外物置場	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上記以外	3	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-

- 放火された場所の建物関係をみると、「共用部分」で84件(40.6%)発生し最多、次いで、居住関係で56件(27.1%)発生。
- 着火物別でみると、「ごみくず」と「枯草・落葉・立木・芝草」で4割以上(45.3%)を占める。

ウ 用途別状況

放火火災のうち、建物から出火した火災 198 件の火元の用途別発生状況をみたものが表 3-1-3 です。

表 3-1-3 火元建物用途別発生状況

火			元 の 用 途										(合計 198 件)					
居 住 系			事 業 系										居 住 ・ 事 業 系 以 外					
共 同 住 宅 等	住 宅	住 複 合 用 部 途 分 の 宅	事 務 所	駅 舎 等	倉 庫 等	物 百 貨 販 店	福 祉 施 設 等	ホ テ ル	作 業 部	駐 車 場	飲 食 店	特 別 支 援 学 校	そ の 他	共 用 部 分	付 属 建 物 等	空 家	建 工 事 中 物 の 家	空 家 使 用 中 建 物 部 分 の 1
68	27	2	31	8	6	5	5	2	2	2	2	2	3	22	7	1	1	

(3) 地域別放火火災の発生状況

特別区と受託地区に分けて放火火災件数の上位 10 区市をみたものが表 3-1-4 です。放火による出火率とは人口 1 万人当たりの放火件数をいいます。

表 3-1-4 地域別放火火災発生状況

特 別 区	件 数	放 火 に よ る 出 火 率
足 立 区	35	0.5
江 戸 川 区	33	0.5
大 田 区	30	0.4
板 橋 区	28	0.5
葛 飾 区	23	0.5
練 馬 区	23	0.3
江 東 区	22	0.4
新 宿 区	19	0.5
港 区	17	0.7
中 央 区	17	0.9

受 託 地 区	件 数	放 火 に よ る 出 火 率
八 王 子 市	50	0.9
町 田 市	41	1.0
昭 島 市	28	2.5
青 梅 市	24	1.8
福 生 市	17	3.4
府 中 市	13	0.5
西 東 京 市	12	1.7
東 久 留 米 市	11	1.0
武 藏 村 山 市	9	0.9
調 布 市	9	0.5

(4) 連続放火火災の発生状況

表 3-1-5 主な連続放火火災の発生状況

月	管 内	主 な 出 火 場 所	焼 損 物 件 数
4 月	蒲 田 ・ 大 森	(大田区) 蒲 田 ・ 大 森 西 ・ 大 森 中	ごみくず 5

注 本表は、同一日とその翌日までの間で、同一地域に 5 件以上発生した放火火災を集計したものです。

- 放火の対象となった建物用途は、居住系では「共同住宅等」が最も多く発生。
- 特別区では足立区、受託地区では八王子市で放火火災が多く発生。

2 たばこ

- たばこによる火災の出火原因は第2位。
- たばこによる火災件数は502件で、最近10年間で最少。
- 建物から出火した火災の7割以上を居住系用途が占める。

抽出条件：発火源分類コード「42101 たばこ」
経過分類コード「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く

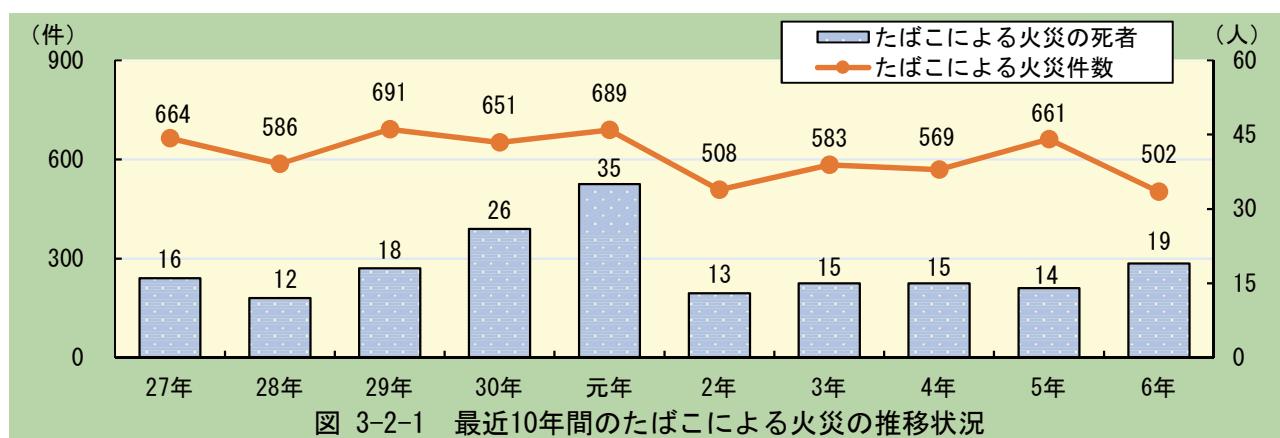
(1) 火災状況

ここでとりあげるたばこによる火災とは、発火源がたばこで、放火及び火遊びによる火災を除いたものです。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-2-1、最近10年間の火災の推移状況をみたものが図3-2-1です。

表 3-2-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	火災種別								損害状況						
	合計	建物					林野	車両	船舶	その他	焼損床面積 (m ²)	焼損表面積 (m ²)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼやや									
27年	664	372	6	17	100	249	-	13	-	279	1,913	838	356,287	16	65
28年	586	354	4	9	88	253	-	17	-	215	1,698	566	328,463	12	92
29年	691	370	4	11	99	256	-	10	-	311	1,622	1,037	462,962	18	88
30年	651	366	4	15	104	243	-	13	-	272	2,391	1,188	529,065	26	92
元年	689	374	5	14	101	254	1	19	-	295	1,757	797	536,156	35	77
2年	508	291	5	10	75	201	-	10	-	207	1,508	717	271,376	13	65
3年	583	312	7	7	81	217	-	12	-	259	1,901	712	424,642	15	94
4年	569	324	11	11	94	208	-	7	-	238	2,474	1,000	664,874	15	74
5年	661	331	8	6	80	237	-	21	-	309	1,991	994	485,248	14	81
6年	502	289	7	7	74	201	1	10	-	202	1,654	851	346,198	19	45



- たばこによる火災件数は、前年に比べ159件減少しており、最近10年間で最少。
- たばこによる火災の死者は、前年と比べ5人増加。

(2) 建物からの発生状況

ア 時間別発生状況

たばこによる火災 502 件のうち、建物部分から発生した火災は 269 件で、このうち出火時分が不明の 18 件を除いた 251 件について時間別発生状況をみたものが図 3-2-2 です。



イ 主な建物用途の出火箇所

建物から発生した火災 269 件について、出火した用途と出火箇所をみたものが表 3-2-2 です。

表 3-2-2 出火した用途別の出火箇所

出火箇所	合計	建物系	用								居住・事業系以外	
			居住系	事業系	小計	飲食店	ホテル	物品販売店舗	事務所等	停車場	ホスピタル料等	
合計	269	201	48	18	9	4	3	3	3	3	8	20
居室	105	103	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-1
ベランダ	59	54	5	1	-	-	-	2	-	-	1	-1
キッチン等	31	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
倉庫・物置・車庫等	18	4	5	1	-	1	-	1	-	1	1	1
店舗・客室関係	17	-	17	8	6	2	-	-	-	-	-	1
廊下・玄関等	16	5	4	1	2	-	-	-	1	-	-	7
作業関係	7	-	7	5	-	-	1	-	-	-	-	1
施設管理・休憩室関係	7	1	6	1	1	1	-	-	-	-	-	3
便所・浴室等	4	3	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
工事中の建物	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
事務室等	2	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1
機械室・設備関係	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

注 事務所等は、15 項のうち事務所、官公署、銀行の合計です。

ウ 経過別出火箇所

建物部分から発生した火災の出火箇所を経過別にみたものが表3-2-3です。

表3-2-3 経過別出火箇所の状況

経 過	合 計	所											
		出 居 室	ベ ラン ダ	キ ッ チ ン	倉 庫 ・ 物 置 ・ 車 庫 等	店 舗 ・ 客 室 関 係	廊 下 ・ 玄 関 等	作 業 関 係	施 設 管 理 ・ 休 憩 室 関 係	便 所 ・ 浴 室 等	工 事 中 の 建 物	事 務 室	機 械 室 ・ 設 備 関 係
合 計	269	105	59	31	18	17	16	7	7	4	2	2	1
不適当な処に捨てる	176	46	48	19	17	11	13	7	7	3	2	2	1
火源が落下する	88	57	11	12	1	4	2	-	-	1	-	-	-
火源が接触する	5	2	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-

エ 経過別の喫煙時の状況

建物部分から発生した火災269件のうち、喫煙時の状況が不明の55件を除いた214件について経過別に喫煙時の状況をみたものが表3-2-4です。

表3-2-4 経過別の喫煙時の状況

経 過	合 計	状況												
		外 出 時	休 憩 中	就 寝 時	出 勤 時	飲 酒 中	起 床 時	作 業 中 ・ 執 務 中	帰 宅 準 備 中	会 議 中 ・ 談 話 中	家 事 従 事 中	観 覧 中 ・ 鑑 賞 中	飲 食 中	そ の 他
合 計	214	49	45	25	15	14	12	10	4	3	2	1	1	33
不適当な処に捨てる	148	37	29	9	11	9	6	9	4	2	2	1	1	28
火源が落下する	64	12	16	14	4	5	6	1	-	1	-	-	-	5
火源が接触する	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- 経過別出火箇所の状況では「不適当な処に捨てる」が176件(65.4%)と、全体の6割以上を占め、その多くは居室及びベランダで発生。
- 喫煙時の状況をみると、「外出中」が49件(22.9%)で最多、2割以上を占める。

オ 出火に至った時間

建物部分から発生した火災 269 件のうち、出火に至った時間が不明の 89 件を除いた 180 件について時間経過別に着火物をみたものが表 3-2-5 です。

表 3-2-5 出火に至った時間経過と着火物

出火に至るまでの時間	合計	着火物							
		ごみくず	織維類	紙・紙製品	床材	家具・調度品	合成樹脂成形品・樹脂	紙くず	不明・その他
合計	180	112	30	18	6	4	2	2	6
1 時間未満	135	86	22	13	2	4	2	1	5
1 時間以上 2 時間未満	25	16	2	3	4	-	-	-	-
2 時間以上 3 時間未満	10	4	3	2	-	-	-	-	1
3 時間以上 4 時間未満	5	3	2	-	-	-	-	-	-
4 時間以上 5 時間未満	3	1	1	-	-	-	-	1	-
5 時間以上 6 時間未満	1	1	-	-	-	-	-	-	-
6 時間以上	1	1	-	-	-	-	-	-	-

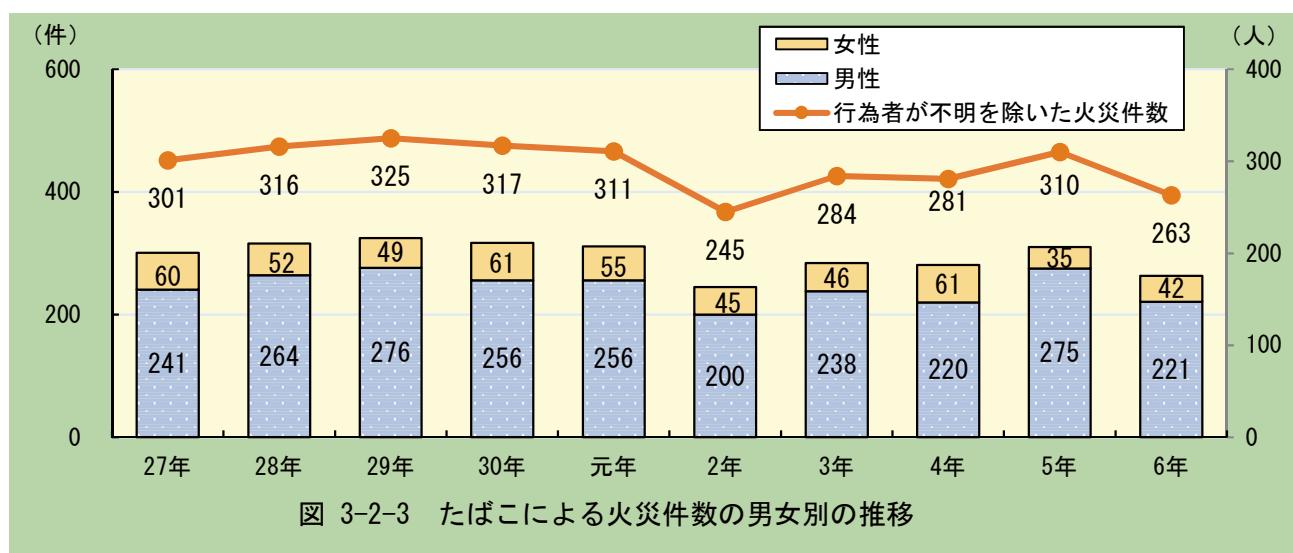
- 1 時間未満が 135 件 (75.0%) で 7 割以上を占め、そのうち着火物は「ごみくず」が 86 件で最多。

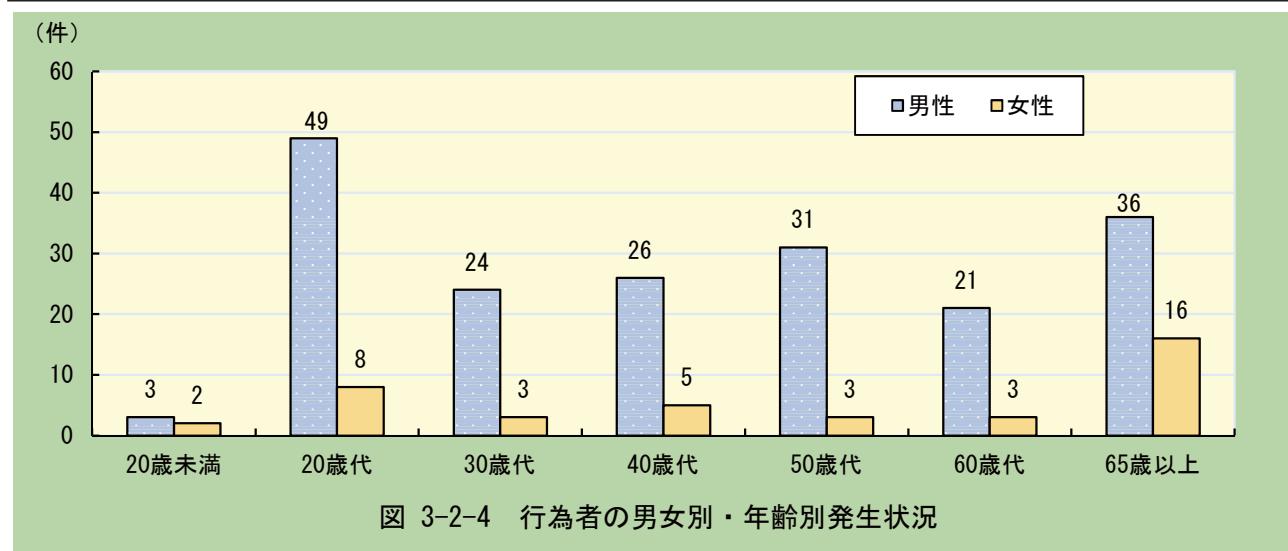
カ 行為者の状況

(ア) 行為者の男女別・年齢

たばこによる火災 502 件のうち、行為者が不明の 239 件を除いた 263 件について行為者を男女別で推移をみたものが図 3-2-3 です。

建物から出火した火災 269 件のうち、行為者の男女別及び年齢が判明している火災 230 件の状況をみたものが図 3-2-4 です。





- 行為者の男女別では男性が 221 件 (84.0%) で 8割以上を占める。
- 行為者の年齢別では 20歳代が 57件 (24.8%) で最多。

(1) 寝たばこによる状況

「寝たばこ」は、「就寝前若しくは起床時などに寝具類の中または上で喫煙し、たばこにより寝具類に着火して出火した火災」を示しています。

寝たばこの年齢区分別行為時の状況をみたものが表 3-2-6 です。

表 3-2-6 寝たばこの年齢区分別行為時の状態

年齢区分別	合計	行為時の状態					死者	負傷者
		薬物服用	正常	飲酒	不明			
合計	9	3	2	2	2		2	1
20歳未満	-	-	-	-	-		-	-
20歳代	1	-	-	1	-		-	-
30歳代	-	-	-	-	-		-	-
40歳代	1	1	-	-	-		-	1
50歳代	2	-	2	-	-		-	1
60歳代	2	1	-	-	1		1	1
65歳以上	3	1	-	1	1		-	1

- 寝たばこによる火災は、年齢区分別では「65歳以上」が 3 件 (33.3%) で 3割以上を占める。

(3) 建物以外の発生状況

建物以外から出火した火災 233 件について出火箇所別に着火物をみたものが表 3-2-7 です。

表 3-2-7 出火箇所別の着火物（建物以外）

出 火 箇 所	合 計	着 火 物									
		ご み く ず	立 枯 木 ・ 芝 草 ・ 落 葉 草 ・	木 質 物	纖 維 類	紙 ・ 紙 製 品	木 切 れ ・ 廢 材	く ず	樹 脂 ・ 合 成 樹 脂 製 品	そ の 他	
合	計	233	106	59	23	12	10	10	6	4	3
道 路 ・ 公 園 等	小 計	107	44	41	7	3	4	2	5	1	-
	道路（側溝を含む）	80	38	28	6	2	4	-	1	1	-
	公 園	16	3	9	1	1	-	-	2	-	-
	河 川 敷	3	1	1	-	-	-	1	-	-	-
	空 地	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	田 畑	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-
	そ の 他	4	-	2	-	-	-	1	1	-	-
固 有 地 (物)	小 計	103	51	18	11	6	5	8	1	2	1
	敷 地 内	84	40	15	11	5	4	6	1	1	1
	ごみ箱・屋外ごみ捨て場	10	8	1	-	-	1	-	-	-	-
	屋 外 駐 車 場	9	3	2	-	1	-	2	-	1	-
部 建 物 分 の	小 計	11	4	-	5	1	-	-	-	1	-
	屋 上	6	2	-	2	1	-	-	-	1	-
	建 物 外 周 部	5	2	-	3	-	-	-	-	-	-
車	小 計	10	7	-	-	2	1	-	-	-	-
	荷 台	5	3	-	-	1	1	-	-	-	-
	助 手 席	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	そ の 他	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
工 作 物		2	-	-	-	-	-	-	-	-	2

注 ここでいう「建物の部分」とは、建物周囲の屋外部分から発生している火災をいいます。

- 建物以外から出火した火災は「道路・公園等」が 107 件 (45.9%) で 4 割以上を占める。
- 着火物は「ごみくず」が 106 件 (45.5%) で最多、4 割以上を占める。

3 火遊び

- 火災件数は37件で、前年より1件減少。
- 建物火災は16件(43.2%)で全体の4割以上を占める。

抽出条件：経過分類コード 「931 火遊び」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「火遊び」とは、行為者が14歳未満の者で、遊びを目的として出火させた火災をいいます。

なお、玩具用花火で遊戯中に出火したものは、含んでいません。

ア 年別火災状況

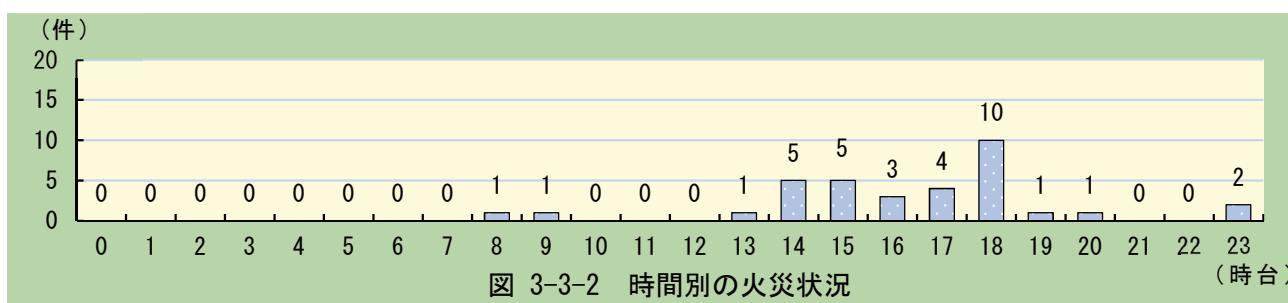
最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-3-1です。

表3-3-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	火災種別							焼損床面積 (m ²)	焼損表面積 (m ²)	損害額 (千円)	死者	負傷者			
	合計	建物					車両	林野	その他						
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
27年	72	26	-	2	5	19	-	2	44	120	18	30,700	-	4	
28年	33	14	-	-	2	12	-	-	19	20	12	3,048	-	1	
29年	49	19	-	-	5	14	-	-	30	15	5	2,707	-	3	
30年	31	12	-	-	1	11	-	-	19	10	-	1,593	-	2	
元年	21	11	-	-	3	8	-	-	10	16	3	3,610	-	-	
2年	20	11	-	-	3	8	-	-	9	64	45	10,032	-	1	
3年	26	6	-	-	-	6	-	-	20	-	-	42	-	2	
4年	20	12	-	-	2	10	-	1	7	-	54	2,925	-	6	
5年	38	15	-	-	2	13	-	-	23	7	2	8,785	-	4	
6年	37	16	-	-	2	14	-	-	21	15	3	9,556	-	6	

イ 月別・時間別の発生状況

月別の火災状況についてみたものが図3-3-1、時間別の火災状況（出火時分不明の3件除く）についてみたものが図3-3-2です。



- 月別では、2月が7件（18.9%）で最多、次いで1月が5件（13.5%）発生。
- 時間別では、37件（出火時間不明の3件除く）のうち18時台が10件（29.4%）と最多、14時台から18時台にかけて火災が多発。

(2) 出火箇所

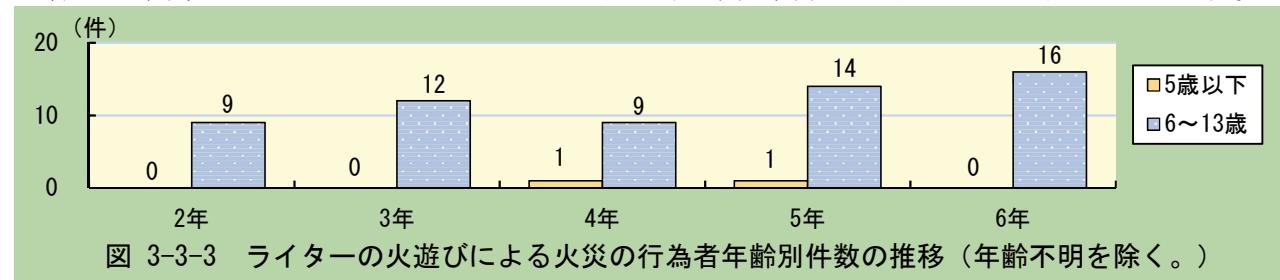
発火源別に出火箇所をみたものが表3-3-2です。

表3-3-2 発火源別出火箇所

発火源	合計	出火箇所								
		建物関係 (主として建物の箇所)				建物関係以外 (主として建物以外の箇所)				
		ベランダ	居室	便所	その他	公園	敷地内	河川敷	屋上	その他
合計	37	3	3	3	6	10	5	3	3	1
ライター	18	-	2	1	4	4	4	1	1	1
マツチ	6	-	-	2	-	3	-	-	1	-
ガステーブル	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
ローソク	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
火のついた紙	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	9	-	1	-	1	3	1	2	1	-

ライターの火遊びによる火災の発生状況

最近5年間のライターの火遊びによる火災の行為者年齢別をみたものが図3-3-3です。



- 発火源別では、ライターが18件（48.6%）で最多。
- ライターの火遊びは増加傾向にあり、前年より1件増加。

(3) 子供に対するライターの安全対策

消費生活用製品安全法施行令の一部改正により、平成23年9月27日以降、使い捨てライター等は、幼児の誤使用を防ぐチャイルドレジスタンス機構（CR）を備えないライターや幼児が興味を引くようなおもちゃ型のライター（ノベルティライター）は販売できなくなりました。技術基準に適合しているライターについてはPSCマークの表示が義務付けられています。

4 ライター

- ライターによる火災の7割以上を建物火災が占める。
- 死者が2名発生しており、最近10年間でみると最多。

抽出条件：①発火源分類コード 「42301 ライター」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげるライターによる火災とは、発火源がライターで、放火及び火遊びによる火災を除いたものをいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-4-1です。

表3-4-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	合 計	火災種別							損害状況						
		建物					林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面積 (m ²)	焼 損 表 面積 (m ²)	損 害 (千 円)額	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
27年	33	18	-	-	2	16	-	11	-	4	77	20	23,320	1	11
28年	40	27	-	1	2	24	-	11	-	2	60	7	19,017	-	32
29年	28	21	-	1	2	18	-	5	-	2	34	21	5,968	-	15
30年	25	19	-	-	2	17	-	4	-	2	6	8	6,252	1	16
元年	29	19	-	1	3	15	-	7	-	3	91	24	59,481	-	14
2年	22	18	-	-	3	15	-	4	-	-	26	21	13,419	-	13
3年	33	21	1	-	3	17	-	9	1	2	202	57	11,873	-	18
4年	35	27	-	1	3	23	-	6	-	2	124	92	27,247	-	16
5年	23	17	-	-	5	12	-	6	-	-	135	29	32,873	-	13
6年	26	19	-	-	5	14	-	4	-	3	91	62	48,322	2	15

イ 月別火災状況

ライターによる火災を月別にみたものが図3-4-1です。

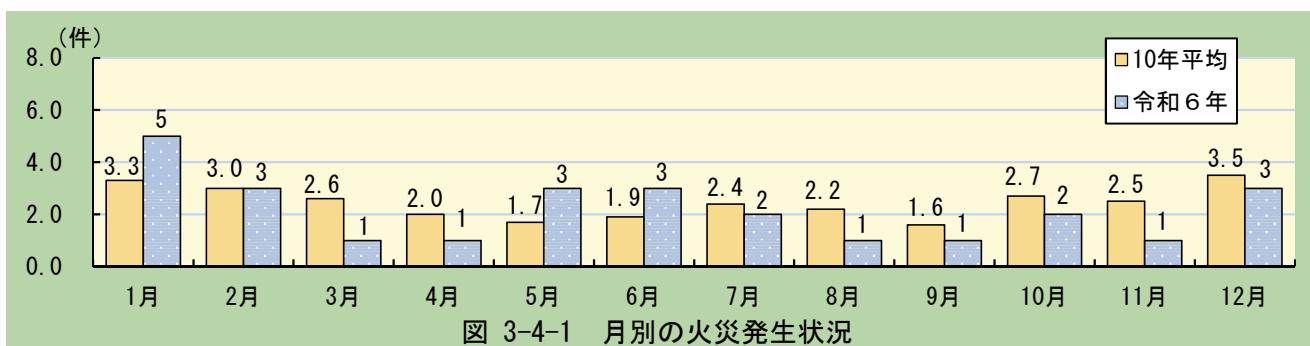


図3-4-1 月別の火災発生状況

- 月別では、1月が5件（19.2%）で最多。
- 最近10年間の月別平均件数では、12月が3.5件と最多。

(2) 経過別出火箇所区分

ライターによる火災の状況を経過別出火箇所区分でみたものが表3-4-2です。

表3-4-2 経過別出火箇所区分の状況

出火箇所区分		合計	経過別					
			引火する	誤って入れる（入れられるチーク）が	火源が接触する	接炎する	用に本來の用途以外の	その他・不明
合	計	26	9	6	4	4	2	1
建物	小計	19	7	3	3	4	1	1
	建物（自宅）	11	2	1	2	4	1	1
	建物（事業用）	6	5	1	-	-	-	-
	建物（その他）	2	-	1	1	-	-	-
建物以外	車両からの出火	4	1	3	-	-	-	-
	屋外で出火	3	1	-	1	-	1	-

- ライターによる火災は建物で19件（73.1%）発生。そのうち、自宅から出火しているのは11件（57.9%）で5割以上を占める。
- 経過別では、「引火する」が9件（34.6%）で3割以上を占める。次いで「誤ってスイッチが入る（入れる）」が6件（23.1%）発生。

5 ロウソク

- 火災件数が39件で前年と比べて1件増加。
- 負傷者が14名発生しており、最近10年間でみると最少。

抽出条件:①発火源分類コード 「41701 ロウソク」、「41702 灯明」、「41703 ちょうちん」、「41704 灯ろう」、
「41705 走馬灯」
②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ロウソク」とは、アロマテラピーや照明で使う「ロウソク」や宗教等のために用いる「灯明*」などをまとめた火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-5-1、ロウソクによる火災の経過をみたものが図3-5-1、ロウソクの使用目的をみたものが図3-5-2です。

表3-5-1 年別火災状況(最近10年間)

年 別	火 災 合 計	災 種 物					車 両	船 舶	林 野	そ の 他	損 害 状 況				
		建 小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や					焼 損 床 面 積 (m ²)	焼 損 表 面 積 (m ²)	損 害 額 (千 円)	死 者	負 傷 者
27年	40	40	-	1	12	27	-	-	-	-	137	128	57,794	-	18
28年	48	47	2	3	11	31	-	-	-	1	473	180	85,770	1	24
29年	46	46	2	4	10	30	-	-	-	-	422	160	64,061	-	25
30年	41	40	2	3	11	24	-	-	-	1	911	98	135,331	4	15
元年	42	41	3	2	12	24	-	-	-	1	611	149	58,296	2	17
2年	31	31	1	2	10	18	-	-	-	-	406	179	89,762	-	18
3年	40	38	-	4	8	26	-	-	-	2	304	142	75,158	1	28
4年	36	35	1	4	5	25	-	-	-	1	465	270	124,323	4	17
5年	38	38	4	2	5	27	-	-	-	-	647	222	125,081	4	28
6年	39	36	1	-	11	24	-	-	-	3	151	65	36,371	1	14

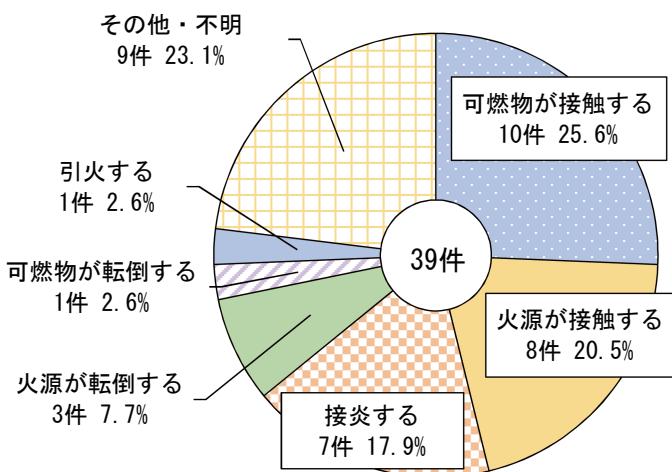


図3-5-1 ロウソクによる火災の経過

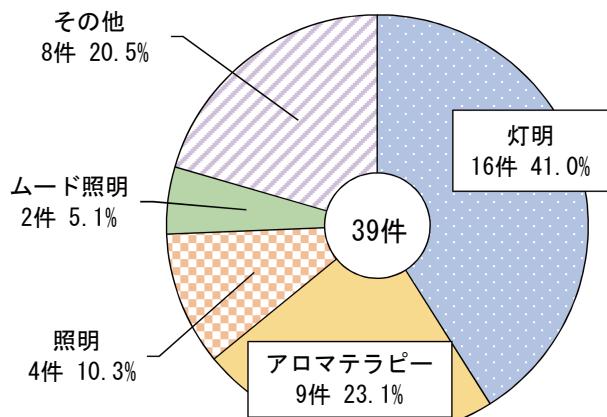


図3-5-2 ロウソクの使用目的

- 火災の経過をみると、可燃物が接触して出火したものが10件(25.6%)で最多。
- ロウソクの使用目的は、灯明が16件で4割以上を占める。

6 電気設備機器

- 電気設備機器火災における建物火災は 1,618 件で、最近 10 年間で最多。
- リチウムイオン電池関連火災の件数は 10 年前と比べて 9 倍以上に増加。

抽出条件：①発火源分類コード 大分類コード「1 電気を使用する道具・装置」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード「0 非該当」

(1) 火災状況

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-6-1 です。

表 3-6-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	全 火 災 件 数	火電 気 災 設 備 機 数 器	全 火 災 に 対 す る 割 合 （%）	火 災 種 別					損 害 状 況							
				建 物					車	船	そ の 他	焼 損 床 面 積 （ m ² ）	焼 損 表 面 積 （ m ² ）	損 害 額 （ 千 円 ）	死 者	負 傷 者
				小 計	全 焼 燒 部 分	半 燒 燒	部 分	ぼ や								
27 年	4,430	1,047	23.6	909	21	21	104	763	-	2	136	5,685	1,913	970,983	18	178
28 年	3,980	1,052	26.4	924	11	18	108	787	1	-	127	3,526	1,856	931,198	11	192
29 年	4,204	1,152	27.4	1,019	22	17	118	862	-	-	133	4,447	1,819	1,208,237	13	171
30 年	3,972	1,205	30.3	1,043	14	28	113	888	-	-	162	3,933	1,549	1,051,712	11	164
元年	4,085	1,283	31.4	1,143	15	21	103	1,004	-	-	140	5,173	1,663	4,197,587	13	159
2 年	3,693	1,163	31.5	1,057	13	15	102	927	-	-	106	2,767	1,646	917,825	14	159
3 年	3,935	1,399	35.6	1,274	16	31	111	1,116	-	-	125	4,878	2,760	1,576,641	18	182
4 年	3,952	1,467	37.1	1,298	28	17	116	1,137	-	-	169	7,415	1,764	1,614,097	19	206
5 年	4,329	1,512	34.9	1,372	17	20	131	1,204	-	-	140	5,087	2,491	1,872,227	15	198
6 年	4,517	1,781	39.4	1,618	23	24	133	1,438	-	1	162	13,132	2,104	2,390,667	20	254

- 令和 6 年中の電気設備機器火災件数は 1,781 件、割合は 39.4% で最近 10 年間で最多。
- 火災種別をみると、建物火災件数が 1,618 件で、前年と比べて 246 件増加。
- 電気設備機器火災の死者は 20 人発生、傷者は 254 人発生しており、いずれも最近 10 年間で最多。

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過(その1)

発 火 源		合 計	電 線 が 短 絡 す る る	金 屬 の 接 触 部 が 過 熱 す る る	ト ラ ッ キ ン グ ス ル る	過 多 の 電 流 (含 電 圧) が 流 れ る る	過 熱 熱 す る る	地 絡 す る る	可 燃 物 が 接 触 す る る	半 燃 物 に よ り 發 熱 す る る	絶 線 に よ り 發 熱 す る る	考 え 違 い に よ り 使 用 を 誤 る る	ス バ ー ク シ ス イ チ が 入 る (入 れ る) す る る	構 造 が 不 完 全 で あ る る	放 射 を 受 け て 發 火 す る る	火 花 が 飛 ぶ る る	放 置 す る る	火 源 が 接 触 す る る	機 械 が 故 障 を 起 こ す る る	ス バ ー ク に よ り 引 火 す る る	本 來 の 用 途 以 外 の 用 に 用 い る る	可 燃 物 が 落 下 す る る	可 燃 物 が 落 下 す る る	調 結 線 を 置 す る る	摩 擦 に よ り 發 熱 す る る	そ の 他 明 記			
合		計	1,781	579	274	149	117	92	75	75	59	48	40	24	24	22	19	18	18	17	11	10	8	7	5	5	5	23	57
電		小計	263	46	18	6	2	30	1	38	23	1	9	5	18	1	9	11	5	16	4	1	-	5	1	-	-	6	7
電 気 ス ト 一 ブ		46	3	1	1	-	-	-	30	2	-	-	-	2	-	4	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
電 気 ト 一 ス タ 一		31	2	-	-	-	20	-	2	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
ヘ ア 一 ド ラ イ ャ 一		20	9	2	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
投 込 湯 沸 器		18	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	5	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
電 気 こ ん ろ		13	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
電 気 オ 一 ブ ン		12	1	2	1	-	2	-	1	1	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
電 气 溶 接 器		12	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
電 气 ク ッ キ ン グ ヒ 一 タ		10	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
電 气 ポ ッ ト		10	3	1	1	-	-	-	-	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
温 風 機		9	6	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
電 子 ジ ャ ー ・ ジ ャ ー 炊 飯 器		7	2	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
そ の 他 の 電 热 器		75	18	11	3	1	8	-	2	3	-	3	3	4	-	4	1	1	2	2	1	-	-	1	-	-	3	4	
電		小計	826	350	38	69	34	60	11	37	20	28	30	7	6	21	10	7	13	1	6	7	8	2	4	3	5	13	36
充 電 式 電 豠		184	152	-	5	3	-	-	-	-	3	-	-	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	13	
電 子 レ ン ジ		84	2	-	1	-	43	-	-	-	1	22	-	1	1	1	-	-	4	-	7	-	-	-	-	-	-	1	
直 流 電 源 装 置 (A Cアダプタ含む)		53	35	-	5	4	1	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
L E D		28	6	-	11	4	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	
電 磁 調 理 器		26	1	-	-	1	7	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
カ ー ボ ン ヒ 一 タ		24	3	1	-	-	-	-	13	2	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-		
コ ン ピ ュ ー タ (本体)		23	17	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
掃 除 機		23	12	5	-	1	1	-	-	1	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
携 帯 電 話 機		22	20	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
螢 光 灯		22	5	1	3	1	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
冷 暖 房 機		19	4	5	2	1	1	-	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1		
シ リ ン グ ラ イ ト		16	4	-	3	2	1	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
充 電 式 カ ミ ソ リ		15	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ダ ウ ン ラ イ ト		14	3	-	1	2	-	-	3	-	-	1	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
冷 藏 シ ョ ー ケ ース		13	2	3	2	-	-	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
ジ ュ ー サ ー		11	8	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ス ピ ー カ ー		9	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
ブ ラ ケ ツ ト		9	2	-	2	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
扇 風 機		9	3	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2		
換 気 扇		8	3	1	-	-	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
白 热 灯 ス タ ン ド		8	1	-	1	-	-	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1			
コンピュータ(モニター)		7	6	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
サ ー キ ュ レ ー タ ー		7	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1		
ハ ロ ゲ ン ラ ン プ		7	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-			
蓄 電 豊		7	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1		
無 停 電 電 源 装 置		7	3	-	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
そ の 他 の 電 気 機 器		171	46	21	13	9	6	2	12	8	2	1	3	1	5	2	7	-	1	1	4	-	1	1	1	5	9	10	

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過（その2）

(2) 主な出火原因

電気設備機器を、発火源別に電熱器、電気機器、電気装置、配線等及び配線器具等に分類したもののが表3-6-2です。

ア 発火源の分類別火災状況

(ア) 電熱器

- 電熱器関係の火災は263件(14.8%)で、前年と比べて9件増加。
- 電熱器の中で火災件数が最も多いのは、電気ストーブで46件(17.5%)発生。
- 電気ストーブの経過をみると、「可燃物が接触する」が30件(65.2%)発生。

(イ) 電気機器

- 電気機器関係の火災件数は826件(46.4%)で、前年と比べて141件増加。
- 電気機器関係火災の上位3位をみると、充電式電池が184件(22.3%)で最多、次いで電子レンジが84件(10.2%)、直流電源装置が53件(6.4%)。
- 充電式電池の経過をみると、「電線が短絡する」が152件(82.6%)と最多。

(ウ) 電気装置

- 電気装置関係の火災件数は89件(5.0%)で、前年と比べて10件減少。
- 電気装置関係の火災は、分電盤が33件(37.1%)で最多、次いで制御盤が13件(14.6%)発生。
- 分電盤の経過をみると、「電線が短絡する」及び「金属の接触部が過熱する」が各11件(33.3%)で次いで、「地絡する」が5件(15.2%)発生。

(エ) 配線等・配線器具等

- 配線等・配線器具等の火災は合わせて600件(33.7%)で、前年と比べて129件増加。そのうちコンセントは102件(17.0%)発生し、前年と比べ15件増加。コードが101件(16.8%)発生し、前年と比べ33件増加。
経過をみるとコンセントは「金属の接触部が過熱する」が69件(67.6%)で最多、コードは「電線が短絡する」が66件(65.3%)で最多。

イ 電気機器の部位別の火災状況

電気機器関係の火災 826 件の主な出火部位をみたものが表 3-6-3 です。

表 3-6-3 主な電気機器の出火部位（上位 9 位）

発 火 源	合 計	充 電 部	差 込 み プ ラ グ	基 板 部	庫 内 部	電 源 コ ード (器具 付 き コ ード)	器 具 内 配 線	ヒ ー タ 部	安 定 器	コ ン デ ン サ 部	そ の 他 の 電 気 器 具 部 分	そ の 他 ・ 不 明	
合	計	826	235	112	84	81	50	41	36	18	13	91	65
充電式電池	184	157	2	10	-	-	3	-	-	-	1	3	8
電子レンジ	84	-	2	-	76	1	-	1	-	-	-	-	4
直流電源装置 (ACアダプタ含む)	53	-	35	6	-	3	-	-	-	-	-	6	3
LED	28	-	1	12	-	4	2	-	-	-	-	9	-
電磁調理器	26	-	-	3	-	1	-	4	-	1	15	2	-
カーボンヒータ	24	-	1	-	-	6	-	17	-	-	-	-	-
コンピュータ(本体)	23	14	4	2	-	1	1	-	-	-	1	-	-
掃除機	23	9	7	-	-	2	1	-	-	-	-	-	4
携帯電話機	22	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
蛍光灯	22	-	-	1	-	1	1	-	15	2	2	-	-
冷暖房機	19	-	2	3	-	7	2	1	-	2	-	-	2
シリングライト	16	-	-	8	-	-	3	-	-	4	1	-	-
充電式カミソリ	15	1	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ダウントライト	14	-	-	3	-	-	1	-	-	-	9	1	-
冷蔵ショーケース	13	-	8	1	-	-	2	1	-	-	-	-	1
ジューサー	11	-	9	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
スピーカー	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブラケット	9	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5	3	-
扇風機	9	2	-	1	-	1	3	-	-	-	-	-	2
その他の電気機器	222	22	41	20	5	21	21	12	3	3	40	34	-

注1 その他の電気器具部分とは、発火源部位の項目に該当していない部分を示します。

2 その他・不明とは上位 9 位に該当しない部位を含みます。

(ア) 充電部

- 電気機器の充電部から出火した火災は、235 件 (28.5%) で、前年と比べて 69 件増加。
- 発火源別に充電部からの出火をみると、充電式電池の充電部からの火災が 157 件 (66.8%) と最多。

(1) 基板部

- 基板部から出火した火災は 84 件 (10.2%) 発生し、充電式カミソリの 14 件 (16.7%) が最多。次いで LED で 12 件 (14.3%) 発生。

(2) 差込みプラグ・電源コード

- 差込みプラグから出火した火災は、112 件 (13.6%) 発生。
- 電源コードから出火した火災は、50 件 (6.1%) 発生。

第3章

(1) 庫内部

- 庫内部から出火した火災は 81 件 (9.8%) 発生し、電子レンジで 76 件発生。

(3) その他の電気器具部分

- その他の電気器具部分から出火した火災は、91 件 (11.0%) 発生。
- 発火源をみると、電磁調理器が 15 件 (16.5%) 発生し最多、次いで LED 及びダウンライトが各 9 件 (9.9%) 発生。

(3) 火元の用途別火災発生状況

電気設備機器の火災を火元の用途別にみたものが表 3-6-4 です。

表 3-6-4 火元用途別火災状況（最近 10 年間）

火元用途区分			27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	前年比	
合計			1,047	1,052	1,152	1,205	1,283	1,163	1,399	1,467	1,512	1,781	269	
用 途	建 物	政令用途対象物	458	488	537	549	660	565	652	690	726	873	147	
		(%)	43.7	46.4	46.6	45.6	51.4	48.6	46.6	47.0	48.0	49.0	1.0	
	其 他	住宅・共同住宅等	444	426	479	487	474	487	612	604	637	739	102	
		(%)	42.4	40.5	41.6	40.4	36.9	41.9	43.7	41.2	42.1	41.5	▼0.6	
その他（建物以外）			145	138	136	169	149	111	135	173	149	169	20	
			(%)	13.8	13.1	11.8	14.0	11.6	9.5	9.6	11.8	9.9	9.5	
													▼0.4	

注 1 ここでいう、政令用途対象物とは、建物のうち住宅・共同住宅以外の用途部分及び共用部分等をいいます。

2 ここでいう、住宅・共同住宅等とは、消防法施行令別表第一に定める 5 項口（共同住宅等）及び複合用途の居住の用に供する部分をいいます。

- 政令用途対象物をみると、令和 6 年は 873 件 (49.0%) になり、電気設備機器火災全体の 5 割近くを占める。

(4) 出火要因別発生状況

電気設備機器関係の火災の出火要因をみたものが図 3-6-1 です。

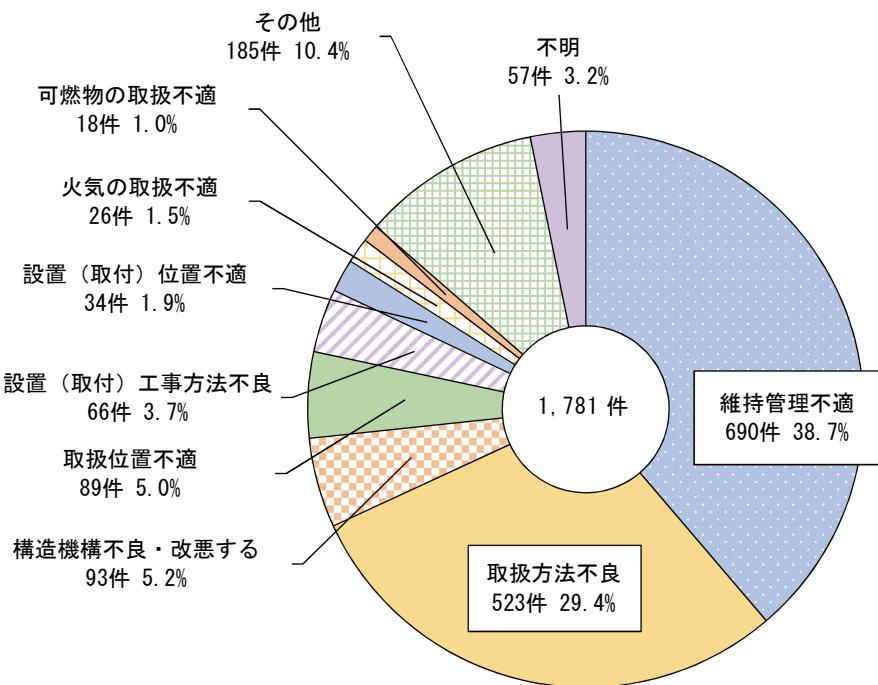


図 3-6-1 出火要因別発生状況

- 出火要因別発生状況をみると、「維持管理不適」が 690 件と最多、次いで「取扱方法不良」が 523 件で、この 2 項目で 7 割近くを占める。

(5) その他の火災状況

ア 電気ストーブ等からの火災

令和 6 年の「電気ストーブ等からの火災」を行為者の年齢別にみたものが図 3-6-2 です。

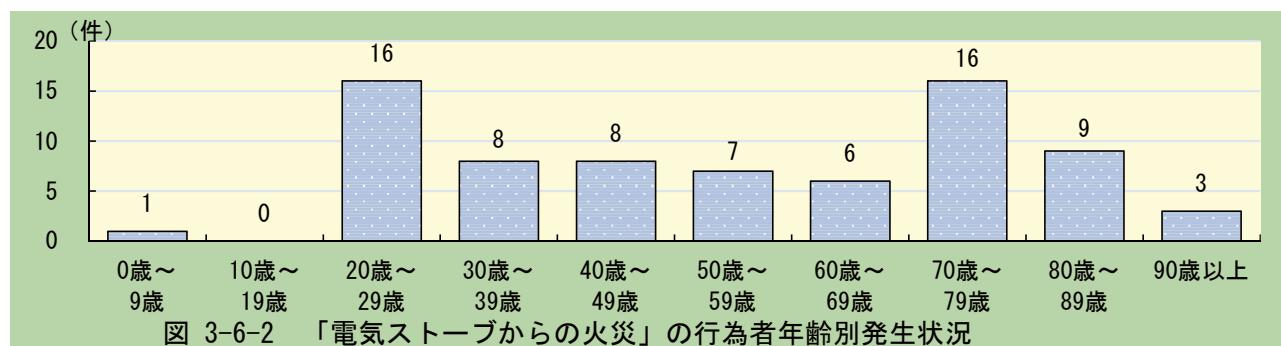


図 3-6-2 「電気ストーブからの火災」の行為者年齢別発生状況

注 1 「電気ストーブ等からの火災」は、電気ストーブ、カーボンヒータ^{*}、ハロゲンヒータ及び温風機の 4 項目を合わせたものをいいます。

2 行為者年齢が不明の 11 人を除いています。

- 電気ストーブ等からの火災の行為者年齢別発生状況をみると、「20 歳～29 歳」及び「70 歳～79 歳」が各 16 人（18.8%）で最多。

イ リチウムイオン電池関連火災の発生状況

本項目において、30年、2年、3年の数値に誤りがありましたので、修正し更新したものを掲載しています。

(ア) 火災状況

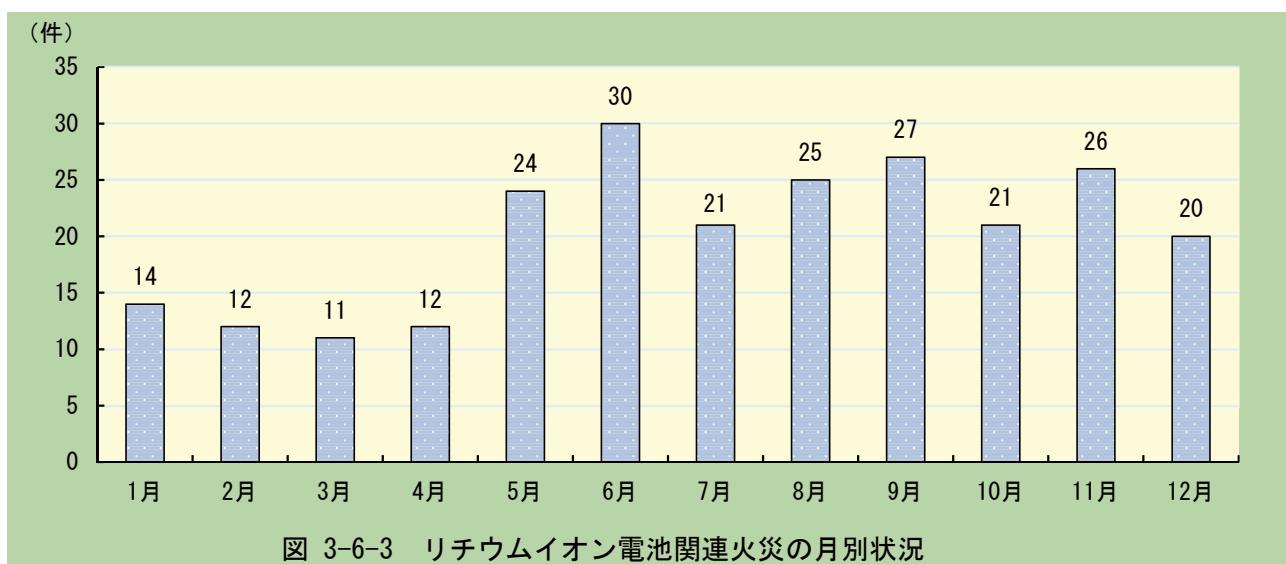
最近10年間のリチウムイオン電池関連火災状況をみたものが表3-6-5、リチウムイオン電池関連火災の月別状況をみたものが図3-6-3です。

表3-6-5 リチウムイオン電池関連火災状況（最近10年間）

年 別	火 災 件 数							損 害 状 況					
	合 計	建 物					車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 (m^2)	焼 損 表 (m^2)		
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や							
27年	26	21	-	-	3	18	3	-	2	2	53	-	3
28年	55	48	-	-	6	42	2	-	5	77	40	-	22
29年	56	47	-	-	5	42	7	-	2	32	41	-	4
30年	81	69	-	1	4	64	6	-	6	74	40	-	10
元年	102	95	1	1	11	82	2	-	5	400	257	-	12
2年	103	92	-	2	10	80	5	-	6	190	165	-	22
3年	140	124	5	5	16	98	5	-	11	860	289	-	30
4年	150	124	4	-	17	103	10	-	16	513	109	1	42
5年	167	151	1	1	23	126	2	-	14	811	119	-	14
6年	243	204	1	2	17	184	10	1	28	325	81	-	40

注1 リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池等を搭載した製品（差込みプラグ及び器具コードを除く。）から出火した火災をいう。

2 リチウムイオン電池関連火災には、ごみ回収中のごみ収集車から出火した火災及びごみ処理関連施設（業態が一般廃棄物処理業及び産業廃棄物処理業）から出火した火災を除く。



- リチウムイオン電池関連火災の件数は243件で、11年連続で過去最多件数を更新。
- リチウムイオン電池関連火災の月別の火災状況では、6月が30件(12.3%)で最多。5月から9月の間に127件(52.3%)発生。

(1) 出火時の状況別の火災状況

令和6年中の出火要因別火災状況をみたものが表3-6-6、製品の入手時期及びPSEマーク*の有無をみたものが表3-6-7、出火前の使用状況をみたものがそれぞれ表3-6-8、表3-6-9です。

表3-6-6 出火要因別火災状況

出火要因	合計	モバイルバッテリ	携帯電話	電動アシスト付自転車	充電式カミソリ	コードレス掃除機	コードレスブル電源	ポーチタブ	ワイヤレスイヤホン	電動工具	タブレット	ノートパソコン	ポートブルスピーカー	空調作業着	携帯扇風機	玩具	加熱式たばこ	その他	不明
合 計	243	80	28	16	14	11	11	10	9	7	7	7	3	3	2	2	31	2	
分解・廃棄等	29	5	14	-	-	1	-	-	-	3	3	-	-	1	-	-	2	-	
外部衝撃(落下・外力等)	29	10	9	3	-	1	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	1	
製品の欠陥(リコール含む)	22	4	-	1	14	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	
いつも通り使用していたが出火	18	7	1	1	-	-	2	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	3	
充電方法誤り	10	1	-	3	-	1	2	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	
使用方法誤り	5	-	1	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の他	40	13	-	2	-	2	2	3	3	1	1	2	-	1	-	-	9	1	
不明	90	40	3	6	-	3	5	5	2	2	1	3	-	1	1	2	16	-	

注 製品のその他の内訳には、コードレスヘアアイロン、ビデオカメラ、マッサージガン、手指消毒器、電動リールなどを含みます。

表3-6-7 出火要因別製品の入手時期及びPSEマークの有無

出火要因	合計	製品の入手時期								PSEマークの有無		
		1年未満	2年未満	3年未満	4年未満	5年未満	6年未満	6年以上	不明	あり	なし	不明
合 計	243	38	33	23	23	8	9	23	86	52	56	135
分解・廃棄等	29	1	2	2	4	2	-	3	15	4	8	17
外部衝撃(落下・外力等)	29	4	4	2	2	-	-	2	15	8	7	14
製品の欠陥(リコール含む)	22	10	5	2	-	-	-	2	3	2	5	15
いつも通り使用していたが出火	18	-	2	1	4	-	-	4	7	4	2	12
充電方法誤り	10	3	2	1	-	-	-	-	4	1	1	8
使用方法誤り	5	-	2	-	-	-	-	1	2	-	1	4
その他の他	40	8	4	2	1	2	3	3	17	10	9	21
不明	90	12	12	13	12	4	6	8	23	23	23	44

表 3-6-8 出火要因別出火前の製品異常及び出火時の充電状況

出火要因	合計	出火前の製品異常						出火時の充電状況					
		特になし	ふくらみ	充電出来ない	発熱	その他の	不明	充電中	非充電中	使用中	その他	不明	
合	計	243	184	10	10	7	7	25	108	97	22	2	14
分解・廃棄等		29	15	6	3	2	-	3	1	24	2	1	1
外部衝撃（落下・外力等）		29	20	1	-	-	1	7	4	21	3	-	1
製品の欠陥（リコール含む）		22	18	-	1	1	-	2	19	3	-	-	-
いつも通り使用していたが出火		18	16	1	-	-	-	1	8	5	5	-	-
充電方法誤り		10	9	-	1	-	-	-	10	-	-	-	-
使用方法誤り		5	1	-	2	-	1	1	2	2	-	-	1
その他の	40	32	1	1	1	-	5	18	12	3	1	6	
不明	90	73	1	2	3	5	6	46	30	9	-	5	

表 3-6-9 出火要因別出火直前の使用状況

出火要因	合計	出火直前の使用状況							
		毎日使っている	1週間以内に使った	3か月以内に使った	1年以内に使った	1年以上前に使った	初めて使った	不明	
合	計	243	87	35	11	7	6	5	92
分解・廃棄等		29	6	2	-	1	3	-	18
外部衝撃（落下・外力等）		29	11	5	1	-	-	1	11
製品の欠陥（リコール含む）		22	15	2	1	1	-	-	3
いつも通り使用していたが出火		18	3	1	2	2	1	-	9
充電方法誤り		10	3	4	1	-	-	-	2
使用方法誤り		5	1	-	1	-	-	-	3
その他の	40	14	6	-	-	1	2	17	
不明	90	34	15	5	3	1	2	30	

- 出火要因別火災状況の製品をみるとモバイルバッテリが 80 件 (32.9%) で最多。
- 製品の入手時期をみると、「1年未満」が 38 件 (15.6%) で最多。
- 出火前の製品異常をみると、「特になし」が 184 件 (75.7%) で最多。
- 出火直前の使用状況をみると、「毎日使っている」が 87 件 (35.8%) で最多。

ウ トラッキング

最近5年間のトラッキング現象による火災の年別発生状況をみたものが表3-6-10です。

差込みプラグのトラッキング現象による火災は、差し刃間に絶縁物上に湿気を含むちりや埃などが付着した状態で電圧が印加されると、沿面電流が流れ、小規模な放電が発生し、この放電による火花により絶縁物表面に導電性のあるグラファイトが生じて火災に至ります。

表3-6-10 年別発生状況（最近5年間）

年別	電気火災件数	トラッキング火災件数 (電気火災に占める割合%)		差込みプラグ差し刃間の トラッキング火災件数 (トラッキング火災に占める割合%)	
		トラッキング火災件数	(電気火災に占める割合%)	差込みプラグ差し刃間の トラッキング火災件数	(トラッキング火災に占める割合%)
2年	1,163	95	(8.2)	21	(22.1)
3年	1,399	122	(8.7)	39	(32.0)
4年	1,467	127	(8.7)	36	(28.3)
5年	1,512	106	(7.0)	34	(32.1)
6年	1,781	149	(8.4)	34	(22.8)

注 差込みプラグの差し刃間のトラッキング火災件数は、「発火源が配線器具の差込みプラグで経過がトラッキング」、「電気設備機器（発火源が配線器具の差込みプラグを除く）のうち経過がトラッキングで発火源部位が差込みプラグ」の合計です。

- トラッキング現象による火災は、149件（前年比43件増加）発生し、電気設備機器火災の8.4%を占める。
- トラッキング火災件数のうち、差込みプラグ差し刃間で発生した火災件数は34件(22.8%)発生。

7 ガス設備機器

- 全火災件数に対する割合が、令和6年では13.0%で前年と比べて1.2ポイント減少。
- ガス設備機器の火災における厨房関連設備機器の火災は96.8%を占める。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「21 都市ガス」、「22 プロパンガス」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ガス設備機器」の火災とは、都市ガス及びプロパンガスを燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-7-1です。

表3-7-1 年別火災状況（最近10年間）

年別 全火災件数	全火災に対する割合 （%）	火ガス設備機器 件数	火災種別							損害状況						
			建物					車両	船舶	その他	焼損床面積 (m ²)	焼損表面積 (m ²)	損害額 (千円)	死者	負傷者	
			小計	全焼	半焼	部分焼	やや焼									
27年	4,430	694	15.7	681	8	11	101	561	-	-	13	2,102	1,352	363,408	9	252
28年	3,980	588	14.8	580	5	10	70	495	-	-	8	1,563	1,393	1,048,672	9	276
29年	4,204	560	13.3	549	6	9	82	452	-	-	11	2,119	824	719,562	7	194
30年	3,972	508	12.8	489	5	4	72	408	-	-	19	1,129	833	246,254	4	185
元年	4,085	582	14.2	569	5	6	74	484	-	1	12	1,403	830	326,554	3	202
2年	3,693	571	15.5	560	2	8	69	481	-	-	11	952	673	270,102	5	218
3年	3,935	542	13.8	528	2	7	46	473	1	-	13	835	553	218,162	5	163
4年	3,952	535	13.5	524	4	4	53	463	-	1	10	1,051	469	242,642	5	198
5年	4,329	614	14.2	605	5	6	69	525	-	-	9	1,519	998	417,093	6	222
6年	4,517	588	13.0	573	3	6	59	505	-	-	15	1,171	851	334,567	5	196

- 令和6年中の火災件数は588件で前年と比べて26件減少。
- 建物火災の焼損程度をみると、令和6年中の部分焼以上の延焼火災は68件で前年と比べて12件減少。

(2) 主な出火原因

主なガス設備機器別の発火源と経過をみたものが表 3-7-2 です。

表 3-7-2 ガス設備機器の発火源と経過

発火源		合計	放置する・忘れる	接炎	可燃物が接触する	引火	過熱	考え違いにより使用を誤る	誤つてスイッチが入る(入れる)	可燃物が沸騰する・あふれ出る	火のついた油等が吸い込まれる	可燃物が落下する	本来の用途以外の用に用いる	可燃物を置く	伝導過熱する	その他の明	不明
合計		588	217	76	61	48	42	33	31	10	8	7	7	5	5	25	13
厨 房 関 連	小計	569	217	68	61	47	41	33	31	10	8	6	7	5	5	18	12
	ガステーブル	269	80	38	35	20	17	28	28	3	-	4	4	2	1	3	6
	大型ガスこんろ	128	82	10	8	6	9	1	-	5	-	1	1	1	3	1	-
	大型レンジ	37	22	3	2	3	5	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
	ガスこんろ	32	17	1	6	2	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	簡易型ガスこんろ	24	8	3	4	4	1	-	-	-	-	1	-	-	-	1	2
	ガスレンジ	14	3	-	-	2	-	2	3	-	-	-	-	-	1	1	2
	ガスロースタ (無煙を除く)	8	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	給湯器	8	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
	フライヤ	7	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
	無煙ガスロースタ	7	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-
	ガス鉄板焼器	6	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-
	その他の厨房関連	29	4	4	4	6	5	-	-	1	1	-	-	-	-	4	-
家事・季節関連	小計	11	-	6	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	1
	ガス衣類乾燥機	6	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	簡易型ガストーブ	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
	ガスファンヒータ	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガス冷暖房機	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	乾燥機	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
工業関連	小計	8	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	ガス切断器	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-
	ガスハンドトーチ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ガス溶接器	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	工業用炉	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- 厨房関連の火災は 569 件発生し、ガス設備機器の 96.8% を占める。
- 厨房関連の経過は、「放置する・忘れる」の 217 件 (38.1%) が最多、4割近くを占める。
- 家事・季節関連の火災は 11 件 (1.9%) 発生し、そのうちガス衣類乾燥機が 6 件 (54.5%) 発生。
- 工業関連の火災は 8 件 (1.4%) 発生し、そのうち 5 件 (62.5%) がガス切断器に起因して発生。

(3) 出火要因別発生状況

出火要因別発生状況をみたものが表 3-7-3 です。

また、主な出火原因でガステーブル等の部位別着火物及び経過の状況をみたものが表 3-7-4 です。

表 3-7-3 ガス設備機器の出火要因

発 火 源		合 計	取扱方法不良	火気の取扱不適	維持管理不適	可燃物の取扱不適	取扱位置不適	位設置(不適)	工設置事務(取付不良)	そ の 他	不 明
合 計		588	206	160	84	81	32	4	3	5	13
厨 房	小 計	569	201	159	77	80	30	4	2	4	12
	ガステーブル	269	115	56	19	52	14	3	-	4	6
	大型ガスこんろ	128	33	65	12	9	8	1	-	-	-
	大型レンジ	37	13	16	8	-	-	-	-	-	-
	ガスこんろ	32	13	10	-	6	2	-	-	-	1
	簡易型ガスこんろ	24	8	6	-	6	2	-	-	-	2
	ガスレンジ	14	5	1	3	1	-	-	2	-	2
	ガスロースタ (無煙を除く)	8	1	-	7	-	-	-	-	-	-
	給湯器	8	3	-	4	1	-	-	-	-	-
	フライヤ	7	-	2	4	-	-	-	-	-	1
関 連	無煙ガスロースタ	7	-	-	7	-	-	-	-	-	-
	ガス鉄板焼器	6	3	-	3	-	-	-	-	-	-
	その他の厨房関連	29	7	3	10	5	4	-	-	-	-
	小 計	11	1	-	7	-	2	-	-	-	1
	ガス衣類乾燥機	6	-	-	6	-	-	-	-	-	-
家 事・季節関連	簡易型ガストーブ	2	1	-	-	-	1	-	-	-	-
	ガスファンヒータ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	ガス冷暖房機	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	乾燥機	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	小 計	8	4	1	-	1	-	-	1	1	-
工 業 関 連	ガス切断器	5	3	-	-	-	-	-	1	1	-
	ガスハンドトーチ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	ガス溶接器	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	工業用炉	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-

表 3-7-4 主な火災原因分類におけるガステーブル等の部位別着火物及び経過の状況

部 位 別		合 計	放 置 す る ・ 忘 れ る	可 燃 物 が 接 觚 す る	接 炎 す る	入 誤 つ て 入 れ る (スイッチ) が	使 用 違 い を 誤 り に よ り	引 火 す る	過 熱 す る	可 燃 物 が 落 下 す る	本 来 の 用 途 以 外 の 用 い に 用 途 す る	そ の 他 ・ 不 明
合	計	339	108	45	42	31	31	28	20	5	4	25
こ ん ろ 部	小 計	291	93	45	38	20	30	23	12	5	4	21
	動 植 物 油	63	50	-	-	-	-	-	10	-	-	3
	台 所 用 品	35	6	3	7	5	12	-	-	-	-	2
	着 衣	32	-	28	1	-	-	-	-	-	2	1
	砂 糖 , 食 料	27	26	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	その他の合成樹脂及び成型品	18	3	3	6	1	3	-	-	-	-	2
	電 気 製 品	18	-	-	2	3	13	-	-	-	-	-
	その他の紙・紙製品	15	-	2	7	4	-	-	-	-	-	2
	繊維製品, しゅろほうき	14	2	3	2	-	-	-	-	3	-	4
	L P G (エアゾール)	12	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-
部	そ の 他 ・ 不 明	57	6	6	13	7	2	11	1	2	2	7
グ リ ル 部	小 計	41	15	-	3	11	1	2	8	-	-	1
	油 か す	24	10	-	3	4	1	-	5	-	-	1
	砂 糖 , 食 料	6	4	-	-	-	-	-	2	-	-	-
	その他の紙・紙製品	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
	そ の 他 ・ 不 明	8	1	-	-	4	-	2	1	-	-	-
部 そ の 他 分 の	小 計	7	-	-	1	-	-	3	-	-	-	3
	都 市 ガ ス	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
	そ の 他 ・ 不 明	5	-	-	1	-	-	1	-	-	-	3

- 出火要因をみると、厨房関連では「取扱方法不良」が 201 件で最多、全体の 35.3%を占め、次いで「火気の取扱不適」が 159 件 (27.9%)、「可燃物の取扱不適」が 80 件 (14.1%) 発生。
- 出火要因を主な出火原因分類におけるガステーブル等で分類してみると、339 件発生しており、ガス設備機器に起因する火災の 57.7%を占める。

また、ガステーブル等における部位別は「こんろ部」が 291 件 (85.8%) を占め、そのうち着火物は「動植物油」が 63 件 (21.6%)、次いで「台所用品」が 35 件 (12.0%) 発生。
- ガステーブル等における部位別の「グリル部」をみると、41 件 (12.1%) で、そのうち着火物は「油かす」が 24 件 (58.5%)、次いで「砂糖、食料」が 6 件 (14.6%) 発生。

(4) ガス漏れ火災

ア 年別火災状況

最近10年間のガス漏れ火災年別状況をみたものが表3-7-5、最近20年間のガス漏れ火災件数の推移をみたものが図3-7-1です。

表3-7-5 ガス漏れ火災年別状況

ガス種別	年別	合計	火災種別					損傷物の他	損害状況					
			建物						焼損面積(m ²)	焼損面積(m ²)	損害額(千円)	死者	負傷者	
			小計	全焼	半焼	部分焼	ぼやけ		床面積	表面積	額	者	者	
都市ガス	27年	12	12	-	-	1	11	-	-	1	55	-	1	
	28年	6	6	-	-	-	6	-	-	-	8	-	1	
	29年	5	5	-	-	-	5	-	-	-	29	-	-	
	30年	9	8	-	-	-	8	1	-	-	73	-	1	
	元年	10	10	-	-	1	9	-	30	25	6,543	-	4	
	2年	9	9	-	-	1	8	-	2	1	424	-	2	
	3年	7	6	-	-	-	6	1	-	-	195	-	2	
	4年	12	11	-	-	2	9	1	40	5	16,696	1	2	
	5年	9	9	-	1	1	7	-	20	1	11,596	-	1	
	6年	7	7	-	-	-	7	-	-	-	169	-	-	
プロパンガス	27年	5	4	-	-	1	3	1	-	4	182	-	2	
	28年	2	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	5	
	29年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
	30年	4	-	-	-	-	-	4	-	-	11	-	1	
	元年	2	1	-	-	-	1	1	-	-	2,387	-	-	
	2年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
	3年	3	2	-	-	-	2	1	-	-	6,250	-	2	
	4年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	
	5年	4	3	-	-	-	3	1	-	-	97	-	4	
	6年	4	4	-	1	-	3	-	100	180	16,095	-	2	



イ 要因別の状況

令和6年中のガス漏れ火災のガス漏れ要因をみたものが表3-7-6です。

表3-7-6 ガス漏れ要因の状況

ガス種別	発火源	ガス漏れ器具	合計	屋内配管の腐食	差しこみ不良	ゴム管の接続不良	ゴム管老化き裂	ボンベの転倒	配管の接続不良	その他・不明
合		計	11	3	2	1	1	1	1	2
都市ガス	小計		7	3	1	1	-	-	-	2
	ガステーブル	本体	3	-	1	1	-	-	-	1
	大型ガスこんろ	本体	2	2	-	-	-	-	-	-
	ガスハースグリラー	本体	1	-	-	-	-	-	-	1
	ガスレンジ	本体	1	1	-	-	-	-	-	-
プロパンガス	小計		4	-	1	-	1	1	1	-
	ガスレンジ	本体	1	-	-	-	-	-	1	-
	ガスロースタ (無煙を除く)	本体	1	-	-	-	1	-	-	-
	ガス炊飯器	本体	1	-	1	-	-	-	-	-
	給湯器	本体	1	-	-	-	-	1	-	-

- ガス漏れ火災は11件で、前年(13件)から2件減少。

8 石油設備機器

- 石油設備機器による火災件数は37件発生し、前年より5件減少。
- 石油設備機器による火災で発生した死者は5人、負傷者は40人でどちらも最近10年間で最多。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「23 油を燃料とする道具装置」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「石油設備機器」の火災とは、石油を燃料とする設備機器が発火源となつた火災をいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-8-1です。

表 3-8-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別 数	全 火 災 件 数	火 石 油 災 設 備 機 器 数	全 火 災 件 数 に 對 す る % 割 合	火 災 種 別					損 害 状 況								
				建 物					林	船	航	そ の 他	燒 損 床 面 (m ²) 積	燒 損 表 面 (m ²) 積	損 害 (千 円) 額	死 者	負 傷 者
				小 計	全 勝 鐘 焼 や	半 分 部 焼 や	部 分 焼 や	ぼ									
27年	4,430	36	0.8	31	3	2	3	23	-	-	-	5	294	31	26,423	-	24
28年	3,980	32	0.8	28	2	2	6	18	-	-	1	3	338	51	961,883	-	36
29年	4,204	40	1.0	36	4	-	11	21	-	-	-	4	864	282	92,131	-	33
30年	3,972	38	1.0	33	3	6	4	20	-	-	-	5	660	119	112,714	1	21
元年	4,085	34	0.8	31	4	1	5	21	-	-	-	3	729	144	110,040	3	13
2年	3,693	27	0.7	18	1	1	4	12	-	-	-	9	211	133	46,567	-	21
3年	3,935	31	0.8	23	5	2	3	13	-	-	-	8	737	496	123,840	4	12
4年	3,952	29	0.7	25	1	4	2	18	-	-	-	4	177	119	97,642	-	13
5年	4,329	42	1.0	32	2	2	4	24	1	1	-	8	667	57	117,964	1	27
6年	4,517	37	0.8	28	5	1	4	18	-	-	1	8	820	378	12,835,341	5	40

- 火災種別をみると、建物火災が28件（75.7%）で7割以上を占める。
- 延焼拡大率（建物火災件数に占める部分焼以上の火災の割合）は35.7%を占め、前年と比べて10.7ポイント増加。

イ 機器別火災状況

石油設備機器のうち、機器別による火災件数の推移をみたものが図 3-8-1 です。

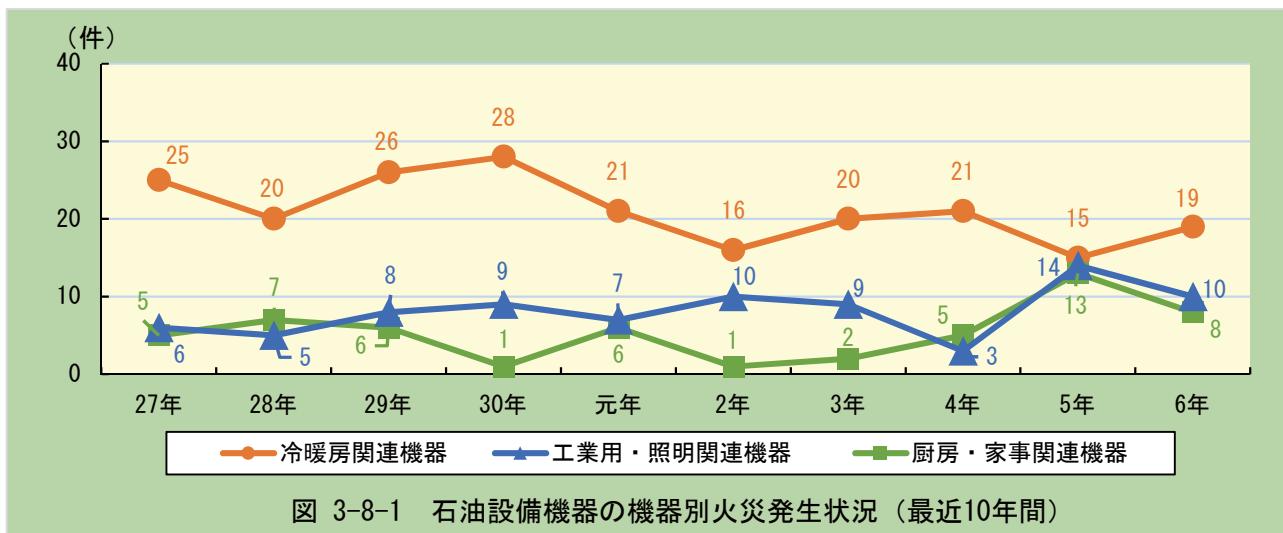


図 3-8-1 石油設備機器の機器別火災発生状況（最近10年間）

注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

ウ 燃料別設備機器火災状況

最近 10 年間の電気、ガス及び石油設備機器別の火災件数を比較したものが図 3-8-2 です。

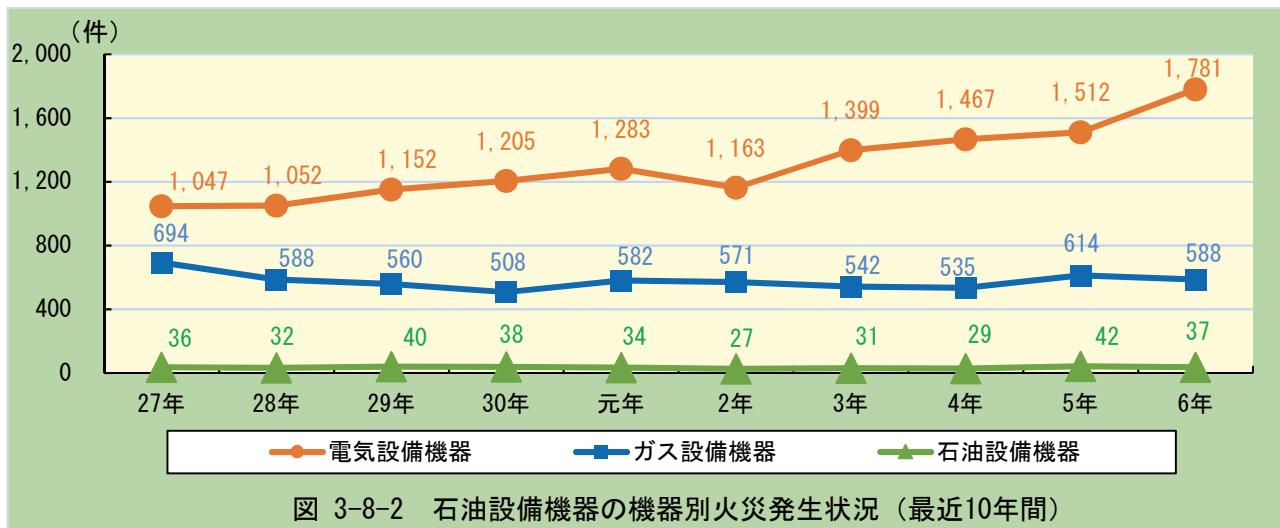


図 3-8-2 石油設備機器の機器別火災発生状況（最近10年間）

注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

- 石油設備機器の機器別火災発生状況をみると、冷暖房関連機器が 19 件 (51.4%) を占める。次いで、工業用・照明関連機器が 10 件 (27.0%) を占める。
- 燃料別にみた設備機器の火災件数をみると、電気設備機器は 269 件増加、ガス設備機器は 26 件減少、石油設備機器は 5 件減少。

(2) 主な出火原因及び出火要因別発生状況

石油設備機器の火災とその発生経過をみたものが表3-8-2、出火要因別火災状況をみたものが図3-8-3です。

表3-8-2 石油設備機器別の出火に至った経過

発 火 源		合 計	引 火 す る	使 用 中 純 油 す る	可 燃 物 が 接 触 す る	可 燃 物 が 落 下 す る	過 熱 す る	適 機 当 械 で の は 調 整 い が	使 用 違 を い 誤 る	發 放 射 火 を 受 け る	火 源 が 落 下 す る	逆 火 す る	空 た き す る	發 衝 突 火 に す よ る	接 炎 す る	燃 料 を 誤 る	不 明	
合 計		37	8	6	5	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2	
関 冷 連 暖 機 器 房	小 計	19	4	3	4	2	-	1	2	-	-	-	-	-	-	1	2	
	石 油 ス ト ー ブ	15	4	1	3	2	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	石 油 フ アンヒーダ	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	代 用 ス ト ー ブ	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関 工 業 連 用 機 照 器 明	小 計	10	3	-	1	-	1	1	-	1	-	1	-	1	1	-	-	-
	内 燃 機 関	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
	発 電 機 機	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	石 油 パ ー ナ	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	アスファルト溶解炉	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	点 火 棒	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	石 油 ラ ン プ	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関 廚 連 機 家 器 事	小 計	8	1	3	-	-	1	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-
	アルコールランプ	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	アルコールこんろ	2	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	風呂がま	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	フライヤ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

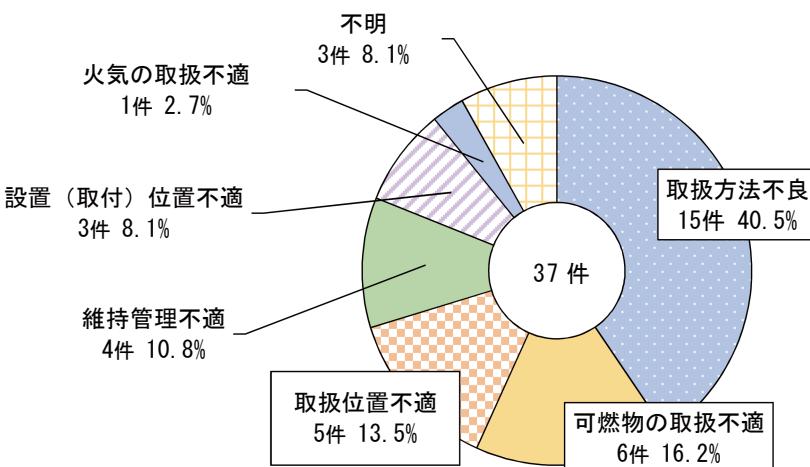


図3-8-3 出火要因別火災状況

- 石油ストーブの火災は15件(40.5%)で前年(12件)より3件増加しており、石油設備機器の火災の4割以上を占める。
- 出火要因別でみると、「取扱方法不良」が15件(40.5%)発生、次いで「可燃物の取扱不適」が6件(16.2%)発生し、合わせて石油設備機器の5割以上を占める。

9 その他の出火原因

- 花火による火災は6件で、玩具用花火及び煙火で発生。
- 雷による火災は26件で、最近10年で最多。

ここでは、前述した出火原因以外で、火災件数の比較的多いものや、特異な出火原因についてみていきます。

その他の出火原因の火災状況をみたものが表3-9-1です。

表 3-9-1 その他の出火原因の火災状況

出火原因	合計	火災種別							損害状況					
		建物					林野	その他	車両	焼損床面積 (m ²)	焼損表面積 (m ²)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼやけや								
花火	6	1	-	-	-	1	-	5	-	-	-	10	-	2
雷	26	15	-	1	3	11	-	11	-	61	88	63,046	-	1
再燃	7	6	-	1	-	5	-	1	-	25	-	1,365	-	2
収れん	11	9	-	-	1	8	-	2	-	-	1	357	-	-

(1) 花火

抽出条件：①発火源分類コード 「71201 煙火」、「71202 花火」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

ここでとりあげる「花火」とは、発火源が煙火及び玩具花火の両方の火災をいいます。

- 火災件数は6件で、前年（5件）と比べて1件増加。
- 負傷者数は2人で、前年（1人）と比べて1人増加。

(2) 雷

抽出条件：経過分類コード 「841 落雷する」

- 火災件数は26件で、前年（5件）と比べて21件増加。
- 直接雷*によるものが8件（30.8%）、間接雷*によるものが18件（69.2%）。
- 月別発生状況をみると、7月に18件発生しており、8月に8件発生。

(3) 再燃

抽出条件：経過分類コード 「321 消したはずのものが再燃する」

ここでとりあげる「再燃」とは、行為者が火災に対して消火行為を行い、消火できたと思われたものの、火種が残っていたため数時間後に再び燃え出して火災となったものをいいます。

再燃前の火災の消火方法と再燃物品をみたものが表 3-9-2 です。

表 3-9-2 再燃前の消火方法と再燃物品

再燃前の火災の消火方法	合計	再燃物品		
		消したはずの纖維・製品	寝具類	その他
合計	7	5	1	1
直接水道の水をかけた	3	3	-	-
コップ・湯のみ等の水をかけた	2	1	1	-
やかん・ポット等の水をかけた	1	1	-	-
その他	1	-	-	1

- 火災件数は 7 件で、前年（16 件）と比べて 9 件減少。
- 再燃前の火災の発火源をみると、たばこによるものが 3 件(42.9%)発生し最多。
- 再燃物品は、消したはずの纖維・製品が 5 件（71.4%）で 7 割以上を占める。

(4) 収れん

抽出条件：経過分類コード 「991 収れんする」

収れんとは、太陽からの光が何らかの物体により反射又は屈折し、これが 1 点に集まることをいいます。反射又は屈折により太陽光が 1 点に集中した場所に可燃物があると、火災となる場合があります。

- 火災件数は 11 件で、前年（16 件）と比べて 5 件減少。
- 発火源をみると、凹面鏡が 6 件、凸レンズが 4 件、反射板が 1 件。